

知財翻訳の転換点：2025-2026年「生成AI×翻訳」の劇的進化

2025年：生成AIの本格導入と機密性の確保

2026年：自律型エージェントAIによる業務完結

NMTとLLMのハイブリッド化



「流行期」としての盛り上がり
生成AI展示に人だかりができ、DXの
一機能として翻訳が位置づけられた。



翻訳機能向上に加え、LLMを活用
した機密保持と専門用語対応が主眼。



ポストエディット（人手修正）前提
AIが翻訳し、人間がチェック・修正を行うワークフローが主流。

2025年（第34回）

- NMT + LLM
(機密保護)
- 高品質・時間短縮
(定性的)
- 翻訳支援ツール

核となる技術

精度の指標

製品の定義

2026年（第35回）

- 生成AI + エージェント
(自律修正)
- 修正必要率0.05%
(定量的)
- 知財DX
プラットフォーム

2025年（第34回）

- NMT + LLM
(機密保護)
- 高品質・時間短縮
(定性的)
- 翻訳支援ツール

核となる技術

精度の指標

製品の定義

2026年（第35回）

- 生成AI + エージェント
(自律修正)
- 修正必要率0.05%
(定量的)
- 知財DX
プラットフォーム



自律型エージェントAI



修正必要率 0.05% の衝撃
エージェントAIが自ら検証・修正を行
い、人手チェック不要の環境を訴求。



人手翻訳は「例外処理」へシフト
人手翻訳は「例外処理」や「最終監
督」などの高付加価値業務に特化。

知財ワークフローへの統合



知財ワークフローへの統合
翻訳単独ではなく、明細書監査から
コスト監査までを一気通費で支援。



高レベル戦略者し、まめに
チームの複雑なケースを援化。